

③冠動脈バイパス術とは？

次に冠動脈バイパス術ですが、これは風船治療が、完全に血管がつまっているなどの理由で適さず、かつ冠動脈の入り口部分などが狭いために、放置しておくとも生命に危険のある場合に選択されます。逆に言えば放置しておいても生命を脅かさない場合はこのバイパス術は通常選択されません。バイパス

とは**迂回路**という意味ですが、道路のバイパスと全く同じ意味です。冠動脈の狭い部分には手をつけず、患者さん自身の血管を他部位から採取（バイパス血管）して、狭い部分の先にある状態のよい冠動脈に縫い合わせて、新しい血液の道をつくる手術です。

バイパス血管には肋骨の裏側を走っている動脈や足の内側を走っている静脈などを用います。一度に3-4箇所バイパスも可能ですし、流れの悪い冠動脈につなぐと詰まることもありますが、多くは長い期間流れうるという点が長所かと思えます。最近では、人工心肺という大がかりな装置を用いなくて、心臓が動いたままで手術する、オフポンプバイパス術が主流になってきました。透析患者さんは他の患者さんに比べますと、手術の合併症をおこしやすいことが言われてきましたが、この術式の普及により、透析患者さんの手術成績も他の患者さんにかなり近づきつつあります。

最後に、検査の結果この冠動脈バイパス術を勧められた患者さんは、生命の危機が迫っているからこそ勧められたものと思います。

しかしかつてに比べ、透析患者さんの冠動脈バイパス手術の成績は格段に向上しました。順調にいけば2-3週間で退院できますので、決して動揺されることなく手術に臨んでいただければと存じます。そうして手術後、再びそれぞれのクリニックにもどっていただき、スタッフのみんなにお話してあげてください。

